日本住居における「スリッパ慣習」に関する研究

奈良女大家政　今井　範子

【目的】　日本住居の履床様式（床と履物の関係にかかわる様式）は，玄関で履物を脱いで床に上がる様式である．そして，履物を脱いで上がると，履物を脱いだその足に「スリッパ」という履物を，履く習慣が一般的であり，日本独特の住様式といえる．住居内に，スリッパの散乱する姿はよくあることである．住生活の混乱を招く程の大きな矛盾はないが，生活上の見苦しさとややこしさが生じていよう．本研究では，この「スリッパ慣習」に着目し，その実態と居住者の意識を明らかにすることによって，この慣習の生活的意味を考察するとともに，散乱の原因と生活上の問題点を指摘することが目的である．

【方法】　阪奈間住宅地に立地する集合住宅と独立住宅（抽出数415,有効回収数300)を対象に，スリッパ習慣に関する実態と意識について，質問紙調査（聴き取り調査併用）を行った．他地域の実態も把握するため，比較資料として奈良女子大学学生自宅（各地域に分布．有効回収数96）を加えた．　調査時期は，１９８６年１２月．

【結果】　①地域差なく，何れの地域においても「スリッパ」習慣が存在する．７～９割が家族用と客用を備える．小学生には履く習慣はなく中学生ぐらいから習慣が生じる．男性より女性に習慣が顕著．季節（夏冬）のスリッパの区別は８～９割がする．年中，習慣をもつ家が殆どであるが，冬季に履く家が幾分増える．　②スリッパの履き分け：便所も同じスリッパの家は殆どなく，便所と居室・廊下の二箇所に履き分ける例が最も多い．さらに便所と居室・廊下と台所等の三箇所に履き分ける例が２割存在する．　③室用途，床面様式（畳，じゅうたん，板の間），起居様式の違いによって，スリッパを履く部屋と履かない部屋が存在する．　④　a.「床座と椅子坐の併存」　b.「畳室と洋室の併存」　c.「日本人特有の微妙な床観」（便所の床に『不浄感』を感じ，畳の床に『清浄感』を感じ，スリッパを履く床には『寝ころびたくない』感覚をいだくなど）が絡んで，部屋による履き分け，脱ぎ履きが行われていると考えられ，この３点がスリッパ散乱を引き出している．　⑤部屋によって履かれる意味合いが異なり，それなりの生活的理由が存在する．スリッパは必要か，不要か，いずれとも言い難い．しかし，便所のスリッパ履き替え慣習は，現在では形骸化しており，便所用スリッパの不要を主張したい．